

SGMLを利用した情報共有とナビゲーション I

2K-4

-情報共有-

松岡 秀達, 泉 寛幸, 松井 くにお
富士通研究所 メディア統合研究部

1. はじめに

イントラネット上での情報共有を容易に実現するために、SGMLを利用したシステムの構築を行っている。データの、やり取りそのものは、既存のメールシステムを利用してプレーンなテキストデータに対してSGML化において指標となる簡易なタグを付加したものを使用している。

システムの適用例として、筆者の所属部署において毎月発行される月度報告書（以下、月報）を対象としたシステム（以下、月報管理システム）を作成し、数名の有志によって使用されており、実験を行っている。本報告では、月報管理システムの運用にあたって発生した問題と、現在、検討している対処の方法について報告する。

2. システムの構成

月報においては、毎月の作成者からの月報を紙ベースで処理しており、印刷された月報が承認者に送付され、承認者によって添削、コメントつけが行われた後、再度、作成者に添削後の月報が戻されて、作成者側で再度点検、印刷後に承認者へ送付されて、問題がなければ承認されて、関係者に回覧されるという手順をとっている。

現在、開発中の月報管理システムでは（図1にシステム構成の模式図をしめす）、月報作成者には、SGML化する際の変換の指標となるような簡易タグを使用してもらって、プレーンなテキストデータを作成してもらい、月報管理システムの管理者にメールとして送付してもらう。月報管理システムにおいては、メールを受信後、作成者に受信通知を行うとともに、登録されている承認者に、承認依頼メールを送信するが、このとき、作成者から送付されたメールからメールヘッダを削除した本文を添付して送付する。

承認者側では、承認の可否をメール本文の先頭につけた簡易タグを利用して記述した後、添削後の月報本文をメールとして管理システムに送付する。管理システムでは、承認の可否を作成者に通知するとともに、非承認の場合には、承認者から送付されたメールをそのまま、作成者にメールとして送付する。作成された月報が承認された場合には、簡易タグを指標にSGML変換し蓄積する。

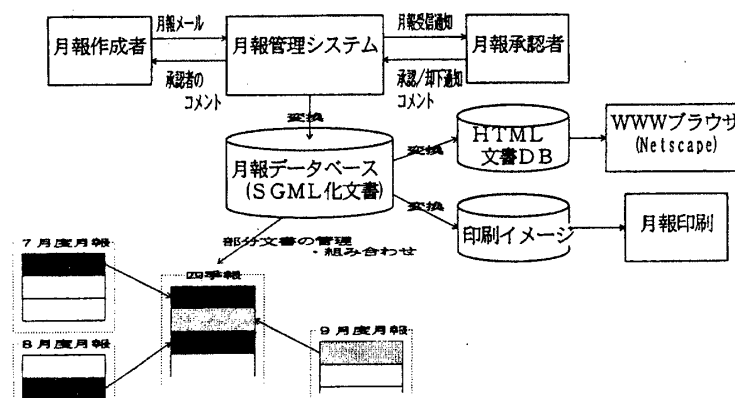


図1. 月報管理システム構成図。

Information sharing and navigation using SGML I. -Information sharing-

Hidesato Matsuoka, Hiroyuki Izumi and Kunio Matsui

Media Integration Laboratory, FUJITSU LABORATORIES LTD.

このとき簡易タグを使用しているため、平文の段階である程度の構造化がなされており、SGML化を容易にしている。簡易タグは、SGMLを(ましてやDTDを)なるべく意識させずに、月報の作成が行えるように留意して作成した。今のところ作成者にとって、簡易タグそのものは、あまり心理的負担が大きいという感触を得ており、エディタやメールの操作に慣れている作成者には好評である。

SGML化された月報は必要に応じて、HTML化されてNetscape等のブラウザによって関係者によってブラウジングされることで情報の共有がなされる。

SGMLからLaTeX等への変換は容易なので、印刷イメージに変換して印刷することもできる。

SGML化してあるため、文書の再利用も容易で、数カ月毎のマトメの作成支援などにも利用でき、参照情報へのリンク等をSGMLデータに埋め込んでおくことで、関連情報をたどることも容易となる。

3. システムの運用上での問題点

システムの運用にあたって発生した問題点は、多分に、このシステムを使用する使用者の心理的なものであった。

- 1) 作成者が印刷イメージを直接に制御できない、という心理的障壁。
これまでの月報は、ある意味で限られたスペースにどのように情報を詰め込むかというところが、月報作成者の腕の見せ所であり、それを直接に作成者側で制御できないという点で、作成者側の心理的障壁が高い。
- 2) 月報の作成と閲覧に異なるプログラムを使用しなければならない、という心理的障壁。
従来の月報作成においては、作成と閲覧は、少なくとも作成者においては同時であり、閲覧にあたって別のプログラムを使用しなければならないという点にも心理的障壁がともなう。
- 3) 承認者が送付された月報の添削を行う場合に、逐一エディタ等を使用する必要がある、という心理的障壁。
従来の承認者側の手順は、送付されてきた月報に対して、コメントなり訂正要求を直接に紙の月報に書き込んで返送すればよかったが、これをエディタ等を使用しなければ、訂正できないという点で、これも心理的障壁が高い。

4. 問題点への対応

上記の問題点で、もっとも大きいものは、3)の承認者の問題であった。これに対して、現在のところ実験途上であり、解決策を模索しているが、承認手続きを行うためのプログラムのユーザーインターフェースを改善することで、ある程度の改善がみられるのではないかと考えている。これは、承認者からの苦情が、ユーザーインターフェースが非常に悪いという形で発せられたためである。

そのために、現在、WWWブラウザから、承認依頼の月報の原稿を見ながら承認処理の行えるプログラムを開発している。あわせて、WWWブラウザから直接に月報の作成ができるプログラムも開発しており、これで2)の問題についてもある程度の改善が見られるものと考えている。

1)の問題は、このようなSGMLを使用する試みにつきものであり、最後まで残る問題である。現在のところは、小規模の実験に止まっているため、個別に対応しているが、運用の規模を拡大することを想定すると、個別の対応は破綻することが想定される。

したがって、あまり、技術的な対応ではないが、本システムの利点をアピールしていくことや、システムの使用方法について講習会を開くなどの、地道な啓蒙活動を行うことで、使用者となる人達の意識を変えていくしかないと考えている。

[参考文献]

- 1) 泉他:「SGMLを利用した情報共有とナビゲーションII -ナビゲーション-」, 本大会予稿 2K-05